

当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

お金を落とした人と、お金を拾った人に100万円当たる

世の中いろいろ、人さまざまだが、お金を落とした人と、お金を拾った人に、それぞれ宝くじの高額が当せんした。

山口県の会社員Gさん(37)は、3万円入りの封筒を落としてしまい、がっくり。ところが、2カ月後のこと。Gさんがお金を落とした日に立ち寄った店へ、再度、行った際、拾った人が、その店に届け出てくれていて、無事にお金が戻ってきた。「このお金は、なくしたのと同じこ

と」と考えたGさん。発売中だったグリーンジャンボ宝くじ(第636回全国自治宝くじ)を1万円分購入。その結果、うち1枚が3等の100万円に当せんした。

もう1人は、千葉県の自由業Tさん(51)で、昨年のお正月に、道で財布を拾い、最寄りの交番へ届け出た。これで一件落着だが、Tさんとしては、自分にお金が入ってきたことに違いはなく「これは、縁起がいい」と考えたそう。それで、発売中だった第2261回関東・中部・東北自治宝くじの初夢宝くじを10枚購入。そうしたら、正直者に神様からごほうびが届き、一富士賞の100万円が当せんした。



ご当地クーちゃん
たこ焼きクーちゃん

当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

「買い方」を変え、女神の注意をひきつけて、大当たりの2人

宝くじを大きく当てるためには、何か、人と違う買い方をするのも一手かも…。というのも、変わった買い方をして、女神の注意をひきつけて、大当たりした人がいる。

東京都の会社員Uさん(56)は10年来の宝くじファンだが、まったく当たらないので「買い方を変えてみよう」と思い立ち、ジャンボ宝くじは「100枚の連番買いを続けられるだけ続けるぞ」と決心。

1 昨年 of 年末ジャンボ宝くじで初挑戦した

が、結果は夢破れた。次に昨年のグリーンジャンボ宝くじ(第636回全国自治宝くじ)で2度目の挑戦したら、早くも3等の100万円に当たってしまった。「これを資金にもっと上を目指します」と宣言するUさんだった。

千葉県の会社員Aさん(63)は昨年4月にスクラッチ(第639回全国自治宝くじ)購入の際、遊び心で「変わった買い方をしてみよう」と決心。一度に10枚買うのだが、時間差をつけて3回に分けて、計30枚を同じ販売員から購入した。結果はうち1枚が1等1,000万円に当せん。「作戦が成功したのか、どうかはわかりませんが、当たったことは事実です」と語るAさんだった。



ご当地クーちゃん
もみじ饅頭クーちゃん